

BOOK REVIEW

書評
「なぜからはじまる体の科学「見る」編」
挾間章博 著 保育社
「なぜからはじまる体の科学「食べる・出す」編」
鯉淵典之 著 保育社

南沢 享（日本生理学会教育委員会・東京慈恵会医科大学細胞生理学講座）

「ポーっと生きてんじゃねーよ!」 いわずと知れたチョコちゃんの決めゼリふです。解説者としてNHK番組「チョコちゃんに叱られる!」に出演された本学会員も何人かおられるかと思います。「ポーっと生きてる」ってどういうことなのだろうかと、思うと、「なぜ」って考えないで生きてることだと気付きます。つまり、本書「なぜからはじまる体の科学」は、「ポーっと生きない」ようにするための指南書といえます。

とっても親しみやすいイラストと文体で構成されていて、児童書に分類されているので、こども向けの本かと侮るなかれ、本書は医療系大学に入学したばかりの学生が読んでもしっかりとした手応えを感じるはずで、そう感じさせるための仕掛けが随所に散りばめられています。そもそも「見る」とは? 「食べる」とは? の問いに始まって、「視覚」「消化・吸収・排泄」の生理学を解説してから、異常(病気)を引き起こす生理的機序についての説明につなげています。僕らが「なぜ」って考える時の多くは、普段と違うことが起こってはじめて気づきがあるのだとすれば、からだの調子が悪くなってしまうことの仕組みを解き明かすようにする本書の仕掛けはとても効果的に機能しています。また、「教えて! 挾間先生! 鯉淵先生!」「なぜからコラム」といった、サイドス



トリー的なコラム・エピソードが随所に散りばめられていて、「なぜ?」が全編を通じて楽しく問いかけてられています。

著者である挾間章博先生、鯉淵典之先生は長年、医学部を主な教場として生理学を大学生に教えられています。しかし、両先生の活動は大学教育だけに留まらず、小中高校生や一般の方がもっとも生理学に馴染んでくれるよう、積極的に働きかけています。本書は、そんな両先生の熱い信念、生理学は「なぜ」に溢れているから面白いんだ、を強く感じさせてくれる出来映えになっています。学会員の先生に是非手に取って頂きたい、推薦致します。